

「かけがえのない」人生

私たちは、誰もがより良い人生を送りたいと願っていることだと思います。しかし、人生は自分の思い通りになることばかりではありません。思い通りにならないこと、自分にとって都合の悪いこと、そういった苦しみをどのように受け止めていくか。そのことが大変大きな問題になります。

そこで、私が京都の大谷大学を卒業した際に、当時の学長であった小川一乗先生から頂いた言葉を紹介させていただきたいと思います。

「かけがえのない」人生

苦勞のない人生はありません。生きる苦勞は、誰も代われないその人だけの生きる証です。それが「かけがえのない」人生ということです。

初代学長清沢満之先生は、今から百数年前「自己の信念の確立」をもって本学の理念としましたが、そこには「かけがえのない自分の人生を引き受けて生ききる」という覚悟が表明されています。

こういった言葉を頂きました。

苦しみがなくなればいいとお願いごとをしたり、ただ一度の人生だから楽しく生きなければ損だという考えになることもあるかもしれませんが、しかし、苦しみはなくなることはありません。苦しみはどうしてもなくなるはいけれども、その苦しみこそが自分を確立していく。また、苦しみを引き受けながらも決して空しく過ぎることのない「かけがえのない」人生を生きる、それが念仏の道であると先ほどの言葉が教えてくださっています。

親鸞聖人は人間の煩悩の深さ、苦しみから逃れられない姿を深く見つめ、それを抱えたままで救われる道を私たちに示してくださいました。自分の人生を本当にかげがえのないものとして引き受けるために、教えを聞き続けていかなければならないと思います。